

第五十一回宗像歌会

平成二十九年十一月十八日(土)

自由詠

題詠『庭』

婚約の品

指輪じゃなくて、ペアウオッチ
現実主義かと思いきや
「時を一緒に刻みたい！」
ロマンティストだったのね

杉下 啓恵

子猫が登り

息子が登り

降りられず

私も登った

思い出の庭木 切ることに

山本 佳代子

多羅葉の葉裏

鉄筆の書き痕が

手品のように

ゆっくりと黒くなる

葉書のルーツ

杉本 明美

何故かしら

心が

ウキウキしてくる

ツワブキの

黄色い風

玉田 久美子

人格を問われる嘘も

平気でつく

政治家、官僚のおかげで

安倍友加計獣医学部

二〇一八年春・めでたく開学

高原 美智子

どこに咲いていても

晩秋の庭の主人公

見る人の

心にポツと灯を点す

石路の花

高原 美智子

奈良の寺の

庭の桜もみじ

間をおかず色づいて

秋空に極みの赤

何も云うことなし

杉本 明美

英彦山の

スロープカーの優秀さを

うれしそうに語るガイドの

声 じゅもって

「あの山の向こうが朝倉です」



岡本 まな子

